心に残る映画

『宇宙兄弟』

2012年／日本／森義隆監督作品

二人の兄弟が宇宙を目指す物語

会員　竹中　朗（69期）

「宇宙兄弟」
好評発売中
¥2,800＋税
発売元：講談社
販売元：東宝

1　あらすじ

「かつて夢を見たことがあるすべての人へ」

この映画の予告編で流れる最初の一言である。

多少こそばゆいセリフであるが，この映画の核心をついている一言である。

幼いころUFOを見た二人の兄弟。二人は，この時「宇宙飛行士になって二人で一緒に宇宙に行こう」と約束する。

弟ヒビトは，この約束を胸に，見事日本人初の月面探査宇宙飛行士となる。

一方兄ムッタは，「非現実的な夢」「宇宙飛行士になる人は特別な人」という周囲の声に流され，いつしか夢をあきらめてしまう。

弟のヒビトがまっすぐ夢を実現したことを誇りに思いつつも，同時に，兄として常に弟を引っ張っていく存在でいたいと思っていたムッタは，劣等感も抱きつつ，自動車会社に就職する。

ある日ムッタは，ヒビトが月に行くというニュースをバカにした上司を頭突きし，無職となってしまう。

失意のムッタのもとに，JAXA宇宙飛行士選抜試験の書類選考を通過したとの通知がくる。ヒビトがムッタに内緒で応募していたのだ。ヒビトは，兄が自分を追ってくることをずっと待っていたのである。映画の冒頭，NASAでの記者会見における「僕より先に月に立つはずだった人が今この場にいないことがとても残念です」というヒビトの発言はムッタのことを指しているのだ（私見）。

幼いころの夢を思い出したムッタは，ヒビトに背中を押されながら，二人が夢見た宇宙飛行士になるために選抜試験に挑む。

そして，選抜試験の過程で，宇宙飛行士になるという同じ夢を持つ大人たちと初めて出会ったムッタは，ライバルであり仲間でもある彼らと，夢を語らいながら，ヒビトが待つ月を目指して選抜試験を潜り抜けていく。

2　自身への影響

この映画（と原作の漫画。こちらも非常におすすめである。現在も連載中なので，ぜひ一読していただきたい）を観たのはロースクール2年目の春である。

自分自身単純な性格なためか，日々勉強に明け暮れ，モチベーションが下がってしまったとき，目を輝かせながら宇宙の話をし，過酷な試験に挑むムッタを見て勉強のモチベーションが非常にアップしたことを覚えている。私にも10歳離れた弟がいるため，ムッタに自分を投影し，兄として弟を引っ張っていきたいとの思いもあったのだろう（引っ張れているか？弟よ）。

いつか子供ができたとき，ぜひみせたいと思える映画だ。

3　夢の続きを，始めよう。※映画のキャッチコピー

社会人になった今，このコラムを書くにあたってもう一度この映画を観てみた。

幼いころの夢を思い出し，宇宙飛行士を目指すと再び決意したムッタは当時31歳である（物語は2025年頃の設定である）。

ヒビトや選抜試験の仲間と夢を語り邁進する31歳の男性をみて，ムッタのように思いっきり夢を追いかけることの素晴らしさを感じる傍ら，実際は難しいよなぁ…と，ムッタに夢をあきらめさせたような周囲の声と似た気持ちも少なからず感じてしまった。

しかし，私は単純だ。日々業務に忙殺されているが，起案のやる気スイッチが入った。